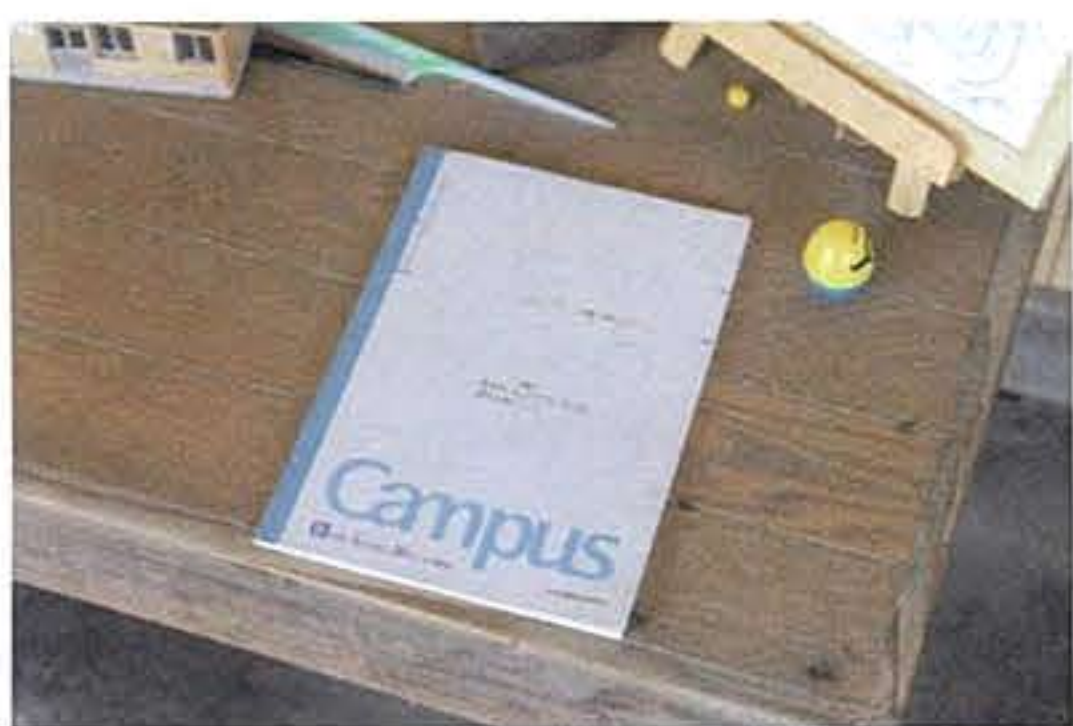


たんさく
シリーズ 青森県の難読地名を歩く④

深浦町 〇〇〇〇 麤木

読み方は記事の最後を見てね



麤木駅の「駅ノート」やホームの写真。駅舎内には訪れた人が置いていったぬいぐるみやおもちゃ、イラスト、駅舎の模型などもあります。駅ノートは書ききったものも置いてあり、19冊目の準備がしてありました。

深浦町麤木は青森県の西海岸にある地域です。麤木の地名の由来を調べたところ、もとは「斗斗口木」と（とろき）で法皇（出家した天皇のこと）の従者が連れていた3頭の馬が波の音に驚いてしまったことから、法皇が「麤木」と改めさせた説。日本海の波の音が絶えず馬が走る音のように聞こえたことからきたという複数説がありました。

麤は馬の群れが走る様子を表しており、イメージとしては大河ドラマで戦場をたくさんの馬が「ドドドド…」という音をたてて走っている様子をイメージしてもらえればと思います。「麤」はパソコンで表示できる漢字（JIS第1水準・JIS第2水準漢字）の中で画数が一番多い漢字（30画）で、全国でも地名に使用しているのはこの「麤木」だけです。

旅の思い出とともにある無人駅「麤木駅」

深浦町麤木には、映画「男はつらいよ」のロケにも使われた無人駅「麤木駅」があります。

麤木駅は、日本海を間近に望み、そこに木造の駅舎がポツンとたたずむ姿がどこか懐かしさを感じる印象的な駅です。数時間おきにしか電車は停まりませんが、知る人ぞ知る絶景の秘境駅として全国から人が訪れます。駅舎内には「駅ノート」があり駅を訪れた人が旅の思い出などを書き込んでいます。撮影に訪れたのは平日にも関わらず、全国各地から車やバイクで人が来て駅舎やホームから見える風景を眺めたり撮影したりしていました。

今回は昼間に撮影しましたが、日本海といえば海に沈む夕日です。日の入りのわずかなマジックアワーやブルーアワーの時間帯にはそれまでのどこか懐かしさを感じさせる風景から一気に幻想的な風景になります。

※麤木は「とどろき」と読みます。調べてみると「とどろき」は難読地名が多く、全国には十々六木、廿六木、等力など書いて「とどろき」と読む地名があります。

2026年度 はじめてはこのお届けを開始します。



7月1日(水)、浪岡センターで、コープあおもりが協賛するRABアップル・バス・キャンペーン「はじめてばこ」の出発式を行いました。出発式ではセンターの職員が2026年度最初の「はじめてばこ」お届けに向かう職員を見送りました。コープあおもり職員が出演する新CMも放映中です。

〔応募対象・応募期間〕

2027年4月1日までに生まれた、青森県内の住所に住民登録された赤ちゃんが対象です。
※誕生日から6か月以内にお申し込みください。
※期限を過ぎて応募いただいた場合はご対応出来かねますのでご了承ください。
※期間外の方は申し込みできませんのでご了承ください。
※申し込みは対象のお子様の保護者の方に限ります。



▲「はじめてばこ」のお申込みはこちらから

RAB放送 Apple Birth Campaign 特設サイト
<https://www.rab.co.jp/event/apple-birth-campaign/>

ピースアクションinあおもりが開催されました。



6月27日(土)、「ねぶたの家ワッセ」で青森県生協連合会が主催する「ピースアクションinあおもり」を開催しました。

1945年、広島と長崎にアメリカ軍が投下した原子爆弾により2度被ばくした二重被ばく者である故山口彊(つとむ)さんの孫で長崎大学平和講座非常勤講師の原田小鈴さんに講話いただきました。また、青森県各生協での取り組みについても報告しました。

原田さんからの講話では、祖父彊さんの体験を語り継ぐことになった経緯や非核平和を訴える活動、広島と長崎両方の原爆投下機の搭乗員故ジェイコブ・ビーザーさんの孫で映像作家のアリ・ビーザーさんとの交流についてお話いただきました。



▲祖父彊さんや今行っていることなどを講話いただいた原田小鈴さん



▲コープあおもりで取り組みを報告した後藤理事